

子育ての悩みに寄り添う絵本
子育てと絵本 vol.28

遊び その11 「ルール遊び」

幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」の1つに“道徳性・規範意識の芽生え”があります。これは、子ども自身で、していいことや悪いことが分かったり、相手の気持ちや立場に立って行動したりできるようになること。決まりを守る必要性が分かり、お友だちと折り合いをつけながら、決まりを作ったり、守ったりするようになる力です。

ルールのある遊びは、鬼ごっこやかくれんぼ、じゃんけん列車、トランプなど、一定のルールにそって遊ぶ遊びのこと。

3～4歳頃になると、大人数で遊ぶことも多くなり、その中で自分の思うように物事が進まなかったり、友だちとぶつかり合うことができてきます。決まりごとを守らなくてはなりません。

絵本「たろうのおでかけ」。たろうはきょう、とてもうれしいことが あります。急ぎたいけれど守らないといけな交通ルール。大人からは何度もだめ だめ だめ! でもね、最後の見開きに広がるはらっぱでは、誰からも走ったらだめとは言われません。思いきり駆けだします。絵本を見ている子どもたちも心の中で存分に走ります。

絵本は幸せな結末、安心感で終わるものがほとんどです。少しだけ怖い、悲しいお話でも、横には読んでくれる温かい声と、安心して逃げ込める場所が保障されています。

「11ぴきのねこ ふくろのなか」。おはなばたけが ありました。「は、な、を、と、る、な、」一。だめって言われたらついやってみたいくなります。経験の少ない幼子は、それをやったらどうなるかが分かりません。たくさんの経験で、お手本となる人や絵本から、良いこと、悪いこと、した方がいいこと、しない方がいいことなどを学んでいきます。

ルール遊びでは、決まりごとの大切さや相手を思いやる気持ちも育ちます。

寒い日にこそ外で子どもと一緒に体を動かしてみませんか。鬼ごっこ、いろ鬼、けいどろ、こおり鬼。からだはポカポカ、心はホクホクしてきます。

今回ご紹介する絵本



たろうのおでかけ
作 村山 桂子
絵 堀内 誠一
福音館書店



11ぴきのねこ
ふくろのなか
作 馬場 のぼる
こぐま社

子育てひろっぱ「めぐみ」代表 弘田 恵子

1998年から20年間高知市内の「めぐみ保育園」で園長を務め、現在は妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。絵本専門士(国立青少年教育振興機構認定)。絵本講師(NPO法人「絵本で子育て」センター認定)。上級睡眠健康指導士。アンガーマネジメントファシリテーター

